

ハーモニー

No.
71

令和3年2月15日

白鷹町大字鮎貝3994番地7 TEL 85-2342 / FAX 85-2341

園児たちが楽しく伝統行事を体験

1月15日、さくらの保育

園（児玉裕継園長）の3歳児から5歳児までの園児たちが小正月行事のだんど下げを体験しました。

この行事は毎年行っているもので、昨年までは町の老人クラブ連合会の方々にご指導いただいたてきたのですが、今年は新型コロナウイルスの関係でお願いすることができず、今年は先生と園児たちだけで頑張りました。

団子づくりは、大きさを気にしながらも上手に丸めて完成。事前に作っていた吊るし飾りと一緒に思い思いに水木に飾り付けていたようです。

子ども達が楽しみながら伝統行事を体験できる機会を作ってあげることの大切さを、取材を通して学ばせていただきました。

手作りの団子や吊るし飾りで華やかに



お獅子やだるま、鶴や金魚など、自分が作った吊るし飾りを見つけて友達と一緒に遊ぶ園児たち。



出来立ての団子が落ちないように水木の先端にしっかり刺している表情は素敵でしたよ。



先生が作った団子をお手本に、ちょっと大きいものもありましたが、丁寧に丸めて…はい、できあがり！

第3期 鮎貝地域づくり四カ年計画書（案）が策定されました

平成26年12月に設立した鮎貝地区まちづくり協議会は、町の指定管理団体として、地区の拠点施設であるコミュニティセンターの管理運営を行うと共に、地区の抱えている課題解決に向け、第1期及び第2期の三カ年計画に基づき地域づくりに取り組んできました。

今年度末で第2期が終了となることから、総務企画部会と各専門部会長とで構成する策定委員会で幾度となく検討し、この度、第3期四カ年計画（案）が策定されましたので、概要を抜粋して2回に分けてお知らせ致します。皆さんのご意見ご要望をぜひお聞かせください。ご協力をお願い致します。

鮎貝地区の現状と課題

鮎貝地区の人口は令和2年3月末で2,794人と、30年前の平成2年と比較して約28%も減少しています。出生数が減少し、若い世代の価値観の変化、就労場所が少ないことや遠距離通勤になっていることなどから核家族化が進み、単身世帯を含む高齢者世帯が年々増加している状況にあります。

一方で、四季の郷駅周辺に商業施設の開業、白鷹大橋の開通等、生活の利便性の向上が期待される明るい話題もありますが、町の都市計画マスタープランにも記されている洪水による被害が想定されることや、近年の異常気象に伴う自然災害への備えも急を要する課題としてあげられます。

更に、先人たちが築き上げてきた伝統文化の継承や組織体制の存続も危惧される状況にあります。

地区計画の位置付け

これからの地域づくりは、様々な地域課題に対し、地区民が一体となって主体的に考え、行動し、解決していくことが求められます。

この計画は、鮎貝地区の方々が課題と目標を共有し、共に助け合い、協力し合って、より住みやすい地域づくりを進めていくための指針となるものです。

計画の期間

令和3年度から令和6年度までの四カ年を計画期間とし、前期2年、後期2年と分けて取り組みます。

(単位：人・戸)

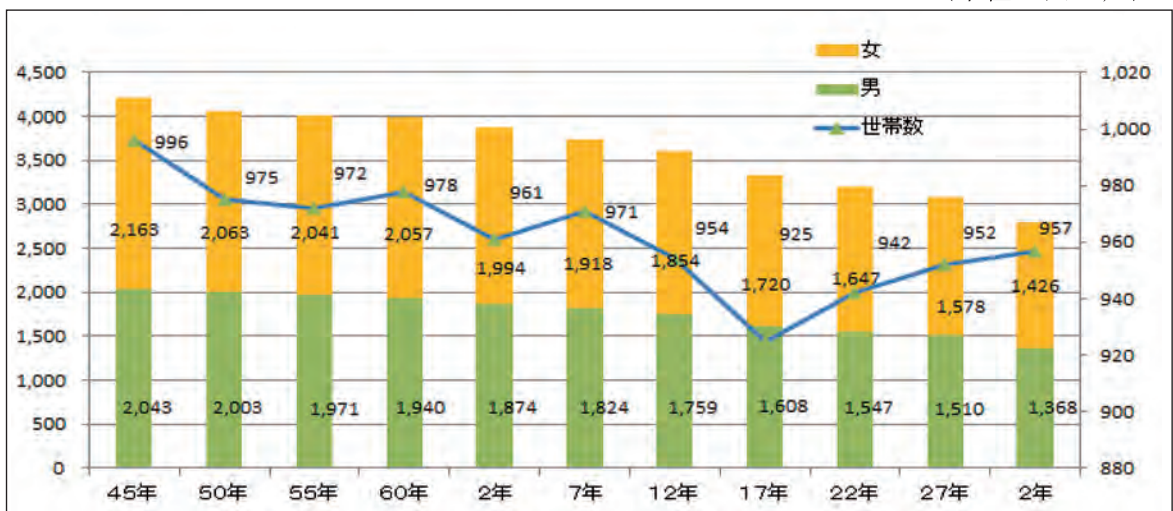


表.. 鮎貝地区の男女別人口と世帯数の推移

地域づくりの理念

これからの地域づくりを、次の3つの視点で展開していきます。

1. 共に支え合い、安心して暮らせるまちづくり
2. 住んでみたい、住んでいたいと思えるまちづくり
3. みんなの知恵やアイデアで創り上げるまちづくり

地域の将来像

地域の将来像を次の通り掲げます。

『心豊かにいきいきと暮らせるまち 鮎貝』

地域づくりの目標

地域づくりの目標と施策の大綱として、下記の3項目を掲げます。

①共に支え合い、安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

相互扶助の精神を大切にし、自然災害に対する防災活動を充実させると共に、防犯や見守り活動を実施し、安全で安心できるまちづくりをめざします。また、美しい環境の維持やごみの減量化に向けた取り組み等により、快適に暮らせる環境づくりをめざします。

②誰もが学び楽しみながら活動できるまちづくり

子どもからお年寄りまで、各世代の要望に応じた教室や講座を通して、生涯にわたって共に学び、健康意識を高める機会を設け、楽しみながら活動できるまちづくりをめざします。また、伝統文化の学習や保存活動を通して、地域に愛着をもつことができるようなまちづくりをめざします。

③鮎貝に愛着と誇りを持ち、生き生きと暮らせるまちづくり

地区コミュニティセンターや分館活動の活性化を図り、地域の交流やふれあい活動を大切にすると共に、伝統文化の保存や活用、情報の発信を通して、地域に愛着や誇りを持ち、生き生きと暮らせるまちづくりをめざします。

計画の推進に向けた具体的な地域づくり計画については、次の3つの分野に整理して策定致しました。

- ・くらしの分野
 - ・まなびの分野
 - ・まちおこしの分野
- 分野毎の具体案や、専門部会も含めた推進体制図等については、次回の3月号に掲載致しますのでぜひご覧ください。

◇字別の人口と世帯数の推移

(人口：人 世帯数：戸)

		平成7年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
鮎貝 箕和田	人口	2,850	2,588	2,521	2,468	2,279
	世帯数	750	728	749	764	774
高岡	人口	409	344	307	300	250
	世帯数	95	90	87	92	87
深山	人口	361	313	286	259	215
	世帯数	93	83	82	76	77
黒鴨	人口	122	83	80	61	50
	世帯数	33	24	24	20	19
合計	人口	3,742	3,328	3,194	3,088	2,794
	世帯数	971	925	942	952	957

注) 令和2年度の数値は白鷹町住民基本台帳に基づいたものです

スキー授業開始

鮎貝小学校長 高橋 彰

令和二年度のスキー教室が始まりました。一回目は、一月十八日(月)に、三年生以上が白鷹スキー場に行ってきました。昨年は雪不足のためにスキー場が使えず、寂しい冬のシーズンでしたが、今年は感染症予防対策をしっかりとって、予定通りの授業が実施できそうです。

当日は朝からお日様が差し、すばらしいコンディションのもと、楽しむことができました。

八時半に学校を出発してスキー場に向かいましたが、到着してみると一般のスキー客は一人も無く、鮎貝小学校の独占状態でした。



開会行事の後、各学年毎いくつかの班に分かれて滑りました。今シーズン初めてスキーに乗るといふ児童は、最初は少し緊張していたようですが、何回か滑っているうちにすぐに慣れ、休憩するのももつたないような様子でした。昼食は密を避けるために、学年毎時間をずらして、スキーセンター館内で取らせていただきました。午後の部も約一時間、楽しみながら滑走してきました。一月十七日から、全国中学校スキー大会県代表選手選考会が赤倉温泉スキー場で開催されています。女子の部で、地元置賜米沢二中の遠藤ななさんが、回転、大回転共に第二位に入賞という素晴らしい活躍をしています。鮎つ子の中からも、近い将来、スキー競技で力を発揮する選手が出るかもしれません。楽しみです。



～駐在所からのお願い～

スリップ事故にご注意を！

圧雪・凍結道路では、乾燥路面の2～8倍も滑りやすくなります。信号待ちなどで停止する際には、早めにゆっくりとブレーキを掛け、十分減速しましょう。

【冬道の安全運転5則】

- 1 スピードは、夏場よりも10キロ以上減速する。
- 2 車間距離は、路面乾燥時の2倍以上とする。
- 3 急加速、急ブレーキ、急ハンドル等の急激な操作を避ける。
- 4 視界不良時は、前方をよく見て早めに徐行する。
- 5 危険がいっぱい。追い越しはしない。



白鷹西駐在所 佐藤正明 巡查部長

施設ご使用にあたってのお願い

ハーモニープラザの冷暖房機本体が老朽化により使用できなくなりました。

ご不便をお掛けしますが、当分の間、各部屋に配置しているブルーヒーターをご使用くださるようお願い致します。

町県民税の申告相談 お忘れなく！

月日	午前	午後
3/2(月)	鮎貝 3・4・14	鮎貝 10・12
3/3(火)	鮎貝 1・2	鮎貝 11・高岡 2 深山 2
3/4(水)	鮎貝 7・8・9	鮎貝 5・高岡 1 深山 1
3/5(木)	鮎貝 13	鮎貝 6・15

【開館時間】 午前8時30分

【受付時間】 午前の部 8時45分～11時
午後の部 11時45分～15時